

1. 基本情報

- (1) 国名：ミャンマー連邦共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ザガイン地域カレーワタウンシップ
- (3) 案件名：ザガイン地域地方橋梁整備計画（The Project for Improvement of Regional Bridges in Sagain Region）
- (4) 事業の要約：ミャンマー地方部(ザガイン地域)において、老朽化により緊急に対応が必要な橋梁の架け替えを行うことにより、陸上交通の円滑化を図り、もって地域開発と地域住民の生活向上、都市と地方の格差是正に寄与することを目的とする。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 本事業を実施する外交的意義

ミャンマーは中国、インド間に位置する地政学的に重要な国であり、我が国は近年同国との間で国際場裏及びアジア地域内における協力関係を強化してきている。2016年11月に実施された、安倍総理とアウン・サン・スー・チー国家最高顧問との会談において、安倍総理から、ミャンマーの民主化の定着、国民和解、経済発展を官民挙げて全面的に支援するとの我が国の方針に基づき、「日ミャンマー協力プログラム」を踏まえて、日本は官民あわせて昨年度（2016年度）から5年間で8,000億円規模の貢献を行う旨表明するとともに、現政権の最優先課題である国民和解に関し、平和進展を支えるため、少数民族地域へ5年間で400億円の支援を行う旨表明した。本計画は同プログラムにおける重点分野のうち「IV地方と都市を結ぶ運輸インフラ整備」に合致し、同プログラムの支援を具体化するものであり、かつ、少数民族地域の生活向上を通じた平和の定着のための支援であることから、実施における外交的意義は大きい。

- (2) 当該国における橋梁セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

ミャンマーでは、ヤンゴン等の大都市部や主要国際幹線道路上等の橋梁について、2011年の民主化以降、国際機関や外国からの支援も活用しつつ改修・整備を進めている。他方、地方の中小規模橋梁については、地域開発にとって重要な幹線道路上にあっても、財政上の制約から改修・整備が進んでおらず、老朽化した仮設橋、木製橋等が依然として使用されている。ザガイン地域のカレーワ～イエウー道路は、ザガイン地域北西部及びチン州北部とミャンマー第二の都市マンダレーを結ぶ幹線道路の一部をなす地域の主要道路であり、道路部分についてはミャンマー建設省（Ministry of Construction。以下、「MOC」という。）が自力で舗装を進めている。しかしながら、同道路上に存在する本事業対象の11橋梁は、依然として整備が進んでおらずそのほとんどは老朽化が著しい仮設橋や木製橋である。これらの橋梁は、河川水位を考慮せずに建設されており、雨期には水没し使用不可能となるものもある。また、橋梁の幅は4m程度のため対面通行は不可能であり、耐荷重は車両総重量13tまでの制限があるために大型車両の通行が難しく、地域交通のボトルネックとなっている。ザガイン地域北西部及びチン州北部は貧困層が多く、特にチン州北部は少数民族地域でもあり、

地域交通のボトルネック解消による地域開発，少数民族地域の生活向上を通じた平和の定着は，早急な対応が必要な課題である。

ミャンマー政府は，2014年に策定した「包括的国家開発計画（National Comprehensive Development Plan）」で，都市と地方の格差を是正し，包括的な発展・成長を達成することを目標に掲げ，更に2016年7月に発表した経済政策の中でも「州・地域間の公平な経済発展」や「電力，道路，港湾といった基礎的経済インフラの迅速な整備」を重要目標とし，地方部における道路・橋梁を含む基礎インフラの整備を国家の重要課題と位置付ける等，国家政策レベルでも地方の道路整備の取り組みを強化している。

本事業は，ザガイン地域のカレーワ～イエウー道路上の11橋梁の架け替えを行うことで，貧困層が多いザガイン地域北西部及びチン州北部の円滑な陸上交通を実現し，ひいては地域開発及び地域住民の生活の向上，都市と地方の格差是正に資するものであり，ミャンマー政府の重要課題である包括的な発展・成長の達成に向けた事業と位置付けられている。

(3) 橋梁セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

本事業は，橋梁の架け替えを通じて，地方部における円滑な陸上交通の確立，ひいては地域開発及び地域住民の生活の向上，都市と地方の格差是正に資するものであり，我が国の対ミャンマー経済協力方針（2012年4月）における重点分野「持続的経済成長のために必要なインフラや制度の整備等の支援」に合致する。また，2016年11月に公表された日ミャンマー協力プログラムにおける重点分野のうち「IV地方と都市を結ぶ運輸インフラ整備」に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

インド政府は無償資金協力にて本事業対象のカレーワ～イエウー道路と接続するインド・ミャンマー友好道路（インド国境のタムー～カレーワ間）の舗装を支援済。今後，同道路上の橋梁整備を支援予定。その他，東西経済回廊整備に対し，タイ政府が橋梁及び道路整備を，アジア開発銀行が道路整備を支援中。また，韓国政府はヤンゴン市街のダラ橋の建設を支援予定。

(5) 本事業を実施する開発政策上の意義

橋梁の架け替えにより幹線道路による円滑な陸上交通を実現し，ひいてはザガイン地域北西部及びチン州北部の地域開発及び地域住民の生活の向上，都市と地方の格差是正に資する本事業は，ミャンマーの開発課題・政策及び我が国の経済協力方針と合致し，強靱（レジリエント）なインフラ構築，持続可能な産業化の促進等を目指すSDGsゴール9に貢献すると考えられる。また，通行車両の安全確保及び雨期における交通確保のためにも架け替えの緊急性が高いことから，無償資金協力としてJICAが本事業の実施を支援する必要性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

- ① 事業の目的：ミャンマー地方部(ザガイン地域)において，老朽化のため緊急に改修・整備が必要な橋梁の架け替えを行うことにより，陸上交通の円滑化を図り，もって地域開発と地域住民の生活向上及び都市と地方の格差是正に寄与することを目的

とする。

② 事業内容

ア) 施設、機材等の内容：11 橋梁（15～25m）の架け替え

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計，入札補助，施工監理（協力準備調査で確認）

ウ) 調達・施工方法：協力準備調査で確認

③ 他の JICA 事業との関係： MOC の橋梁施工監理能力を強化することを目的に技術協力「道路橋梁技術能力強化プロジェクト」（2016 年～2019 年）を実施中。本事業を同技術協力で学んだ内容を実践するパイロット事業とする等，連携を図る。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制：建設省橋梁局（Ministry of Construction, Department of Bridge）

② 他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて確認。

③ 運営／維持管理体制：建設省橋梁局が橋梁の運営・維持管理を担うが，維持管理については技術及び経験の不足が認められることから，ソフトコンポーネントによる能力強化の方法を検討するほか，実施中の技術協力「道路橋梁技術能力強化プロジェクト」とも連携する。維持管理費用について，ここ数年間，建設省の維持管理予算は増加傾向にあり，2013 年には MOC の年間予算 414 億円のうち，約 3 割にあたる 138 億円が維持管理に充てられており，特段の問題は想定されない。詳細は協力準備調査で確認予定。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 A B C FI

② カテゴリ分類の根拠：本事業は，既存橋梁の架け替え工事であることから，大規模な住民移転や用地取得は見込まれないため，環境への望ましくない影響は重大でないと判断される。「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる橋梁セクターのうち，大規模なものに該当せず，環境への望ましくない影響は重大でないと判断され，かつ，同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しない。

(4) 横断的事項：周辺地域の貧困削減効果及び気候変動の適応に資するか，協力準備調査にて確認する。

(5) ジェンダー分類：ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項：

① 最適な仕様（メンテナンス性も含む。），施工方法については，協力準備調査の中で確認。

② 道路，橋梁，メンテナンスを目的とした技術協力プロジェクトの形式の検討。

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

バングラデシュ人民共和国向け無償資金協力「地方道路簡易橋整備計画」の事後評価等では，プロジェクトの効果拡大を図るためには取り付け道路の整備が極めて重要であり，相手国政府による取り付け道路の整備を促進することが必要であるとの教訓

を得た。本事業では、周辺道路の一部はMOCが改修を実施中だが、協力準備調査で周辺道路の状況を確認し、取り付け道路整備の必要性が認められた場合には、本事業の進捗と併せて確実に道路整備を進めるよう、協力準備調査の段階からMOCに働きかける。

以 上

[別添資料] 地図

